



1. 氏 名 高務 哲量

2. 所 属 福井教区 福井組 千福寺 住職 (衆徒)

3. 現 住 所 ※WEB掲載の際には、現住所を削除しております

立候補の趣意 (経歴を含む)

## 同朋教団の回復を目指して

### 新しい領解文の問題

昨年の「新しい領解文」の発布以来、未曾有ともいえる混乱と分断が私たちの宗門に大きな影を落としています。この一年、総局は全教区・特区を巡回し、その理解、普及に努められたとのことですが、総括としては理解、賛同を得られなかったという報告が圧倒的でした。これらの声に対し、しかし現総局はなお普及推進に努める旨の答弁に終始し、立ち止まって見直そうとする兆しは見られません。これでは、あの教区学習会も一体何だったことになるのでしょうか。

「この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり」と浄土真宗の教章に謳われています。また、宗門においてSDGsの根本理念に賛同する運動が展開されているのも、「だれひとり取り残さない」というそのスローガンが、「十方衆生を漏らさず救う」という阿弥陀如来のご本願のおこころに通じるが故でありましょう。同朋とは、同じお念仏をいただき、同じお浄土への道をとともに歩む仲間であります。その仲間の声をしっかりと聞き受け、時代の困難、宗門の抱える諸問題に対処する方向を示そうとする姿勢こそ、同朋教団を標榜する姿であるはずで

### 宗務のあり方に対する危惧

一連の問題を巡って、その制定・普及の方法に、あまりに独断的あるいは強権的手段がとられていないだろうか、また、新しい領解文に疑義を呈した方々が、それ以前に責任を担っておられた場（安居、宗派出版物など）から姿を消すようなことが起きてはいないだろうか――。この危惧は、一末寺前住職の杞憂に過ぎないものでしょうか。私は住職を退任した身であります。教区内の心ある若手僧侶の方々が、いま岐路に立たされている宗門の行方を本気で心配しておられることに重い責任を感じます。そうした方々の願いと声を少しでも宗会に届けねばとの思いから、馬齢を重ねただけの愚身（ぐしん）を顧みず立候補する決意を致しました。

### 宗門の英知を結集できる体制に

ご門主は、法統継承に際してのご消息の中で「現代という時代において、どのようにしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要があります」と述べられました。そのお心にそうべく、私たちの宗門が、宗門を思う人たちを一人も取り残すことなく、また、ご法義を護るため研鑽を積んでこられた方々を排除することなく、真に英知を結集できる体制に立ち返るために、力を尽くして参る所存です。

この選挙公報は、候補者から提出された原稿を印刷したものです。